

副詞「よく」の意味を探る

—— 誤用文をもとにしたアンケート結果からの考察 ——

萩原孝恵

要 旨

多義性のある副詞「よく」の意味を探るため、基礎調査として、日本語母語話者を対象としたアンケート調査を実施した。調査は、「よく」の意味がはっきりしない誤用文を用い、日本語母語話者がどのような意味でその意味を解釈したのかについて、分析・考察を試みた。その結果、実際の運用では、先行研究では記述されていない意味領域⁽¹⁾と意味範囲⁽²⁾を示す結果が現れた。また、「よく」の意味は、文脈に影響される場合と、個人的尺度・立場・状況・環境が反映する場合とがあることが、今回の調査によって観察された。

【キーワード】 誤用文、多義性、解釈・理解、意味領域・意味範囲

1. はじめに

我々日本語母語話者は、母語である日本語に対し、「このことばの使い方は正しい」とか「このことばの使い方はおかしい」というように、直感で文の使い方やことばの使い方を判断することができる。しかしながら、外国語として日本語を学習する人たちにとっては、日本語に対する直感などというものは存在しないため、「非文とはいえないが、なんとなく不自然だ」というような問題のある文を作ってしまうことがある。例えば、本研究のきっかけともなった次のような例である。

(1) 私は学生によく宿題をさせたいです。

この文は非文ではないが、なんとなく不自然な感じのする文である。その理由は、「よく」の意味がはっきりしない・ぼやけてしまっている点だといえる。この文を作った学習者は、「たくさん宿題をさせたい」という意味でこの「よく」を使ったのであるが、もし日本語母語話者がこの文で「たくさん」という意味を伝えたいときには他のことばを選択するのではないだろうか。では、この文を伝えられた受け手（聞き手・読み手）が日本語母語話者であった場合、どのようにこの「よく」の意味を捉え、解釈するであろうか。

2. 問題の所在

柴田 (1979) は、「現代の日本人が互いに意志を通じあえるのは、手段となっている言語の意味に共通するものがあるからと考えられる」とし、飛田・浅田 (1994) も「日本人が日本語を使ってコミュニケーションできるのは、一人一人がそのことばの意味を共通に理解しているからにはほかならない」と述べている。この説明を踏まえると、日本語母語話者は、受け手 (聞き手・読み手) として、送り手 (話し手・書き手) が意図したことばの意味を、与えられた文脈の中で解釈し、共通の理解をしているということになる。では、外国語として日本語を学んでいる学習者が伝達しようと意図したことばに多義性が認められる場合はどうだろう。日本語母語話者は、受け手として、「よく」が使われた文を読んだり聞いたりしたときに、どのようにその意味を解釈・理解するのであろうか。送り手が伝達しようとしたことばの意味を、瞬時に適確に選択し、解釈・理解できるのであろうか。「よく」には、日本語母語話者ならではの共通した意味の解釈・理解というものが存在するのであろうか。

3. 研究の意義

「よく」については、工藤 (2002)、仁田 (2002) が「基本的な語で結びつく語が多く、多義性がある」とその特徴を記しているが、直感を持たない日本語学習者にとっては、このような特徴を持つ「よく」の適切な使用はかなり難しい。そのため、明らかな間違いとはいえないが、なんとなく不自然な誤用文も生まれやすい。田中 (2004) は「基本語は多義的であり、外国語における基本語の運用能力を身につけようとする、大変に困難である」と指摘している。さらに、「偶発的な学習では、基本語を使い切る力を身につけることはむずかしく、なんらかの体系的な指導によって学習を支援する必要がある」とも言及している。金田一 (1976) は「我明白」「我知道」を例に、「日本語の微妙な使い方を外国人に聞かれたらその説明は必ずしも容易ではない」と述べているが、外国語として日本語を捉える日本語教育の現場では、まさにその微妙な使い分けの説明こそが必要であり、基本語の体系的記述が求められていると筆者は考えている。

本研究では、多義性のある「よく」の意味的特徴を探ることを目的とし、今回基礎調査として実施したアンケートの結果を報告する。この調査は、日本語母語話者が使用している実際の意味領域・意味範囲を知ることが目的とする。調査対象資料は、日本語学習者が産出した「よく」の誤用文で、①筆者が収集した資料と、②市川 (2000) 『続・日本語誤用例文小辞典—接続詞・副詞—』の誤用例を資料として用いた。では、今回の調査を進めるにあたって基軸とした市川の「よく」に関する誤用分析をここで概観しておく。

4. 市川 (2000) の誤用分析

市川の「よく」の誤用例を用いた分析は、従来の先行研究では指摘されなかった「よく」の特徴を記述している。市川は、「よく」の意味を、以下のように大きく二つに分けている。

① それをする能力・行為・作用が十分である

② 頻繁に

(市川 2000 : p. 389)

市川は、この意味の大別をもとに誤用を分類し、その誤用に関連して起きている問題について 16の関連項目を図示した。(市川 2000 : p. 385) このうち、意味に関連する項目は 10項目で、その中の 1項目は「あまり～ない」という否定の形との混同であったと説明している。

本調査では、意味を表す誤用例のうち、否定を除いた 9項目の例文を調査対象資料として取り上げる。では、具体的にどのような調査を行ったのか、調査の概要について説明しよう。

5. 調査の概要

「よく」について、日本語母語話者は共通した意味で理解するのか、それとも、それぞれの意味の解釈に違いが出るのか。「よく」の意味の実際の使用状況を調査するため、基礎調査としてアンケートによる意味調査を実施した。

5-1 調査の内容

アンケートに掲載した例文は、市川の誤用例の中から「よく」の意味が異なる12例と著者が収集した資料の中で意味が曖昧だった3例を加え、全部で15の誤用文を選び、アンケート⁽³⁾を作成した。

5-2 調査の方法

回答方法は自由記述形式で、感じたまま自由に書いてもらうという方法で行った。アンケート⁽³⁾は、2004年6月に実施した。

5-3 調査協力者

日本語母語話者を対象とした今回の調査には、45名の方々のご協力をいただいた。回収率は90%で、性別の内訳は、女性43名、男性2名で、年代別では、10代後半～20代前半が13名、20代前半～30代前半が7名、30代後半～40代が9名、50代が5名、60代が9

名、70代以上が2名で計45名となっている。(図1-1) 出身地は、群馬が最も多く19名、次いで東京9名(図1-2)、現在の居住地は群馬21名、次いで東京13名(図1-3)となっている。この地域的偏りは、今回調査を実施した場所が関係していると思われる。

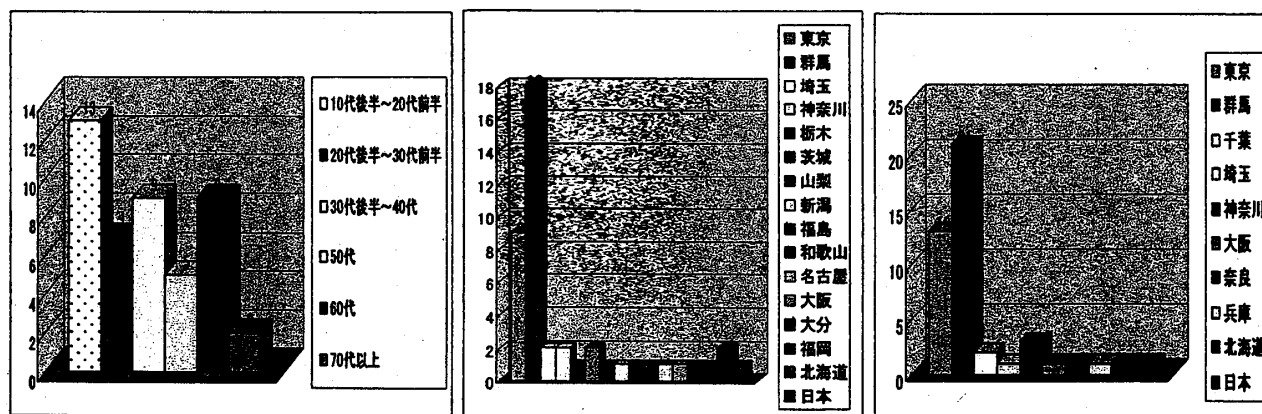


図1-1 年代

図1-2 幼少期の居住地

図1-3 その後の居住地

では、アンケートの回答から得られた結果で、特徴が顕著であった例文についてみていくことにする。

6. 分析と考察

アンケートを実施した15の例文の中から、「よく」の意味解釈に特徴が現れた4つの例文について、本稿では報告する。

<分析1>

本研究のきっかけとなった(1)の誤用文を少し変更して載せた(1')の例からみていくことにしよう。

(1') もし私が先生なら、学生によく宿題をさせたいです。

この「よく」の意味は、図2が示すとおり、「たくさん」と<量>的な意味で答えた人が最も多く20名で43%、「ほぼ毎日」と<頻度>の意味で答えた人は9名で19%であった。少数意見としては、「真面目」、「十分」といった答えもあった。また、<頻度>の意味で解釈した人の中には、「よく」の表す<頻度>が「週1回」と答えた人が2名いたことも注目すべき点である。

<頻度>の「よく」の意味は「頻度の高さ」を示すと先行研究では記述されているが、実際の解釈・理解においてはその尺度にかなりの幅があることが確認された。人によっては、たとえ1週間に1回であっても「頻度が高いと感じる」という解釈は、一概に「頻度

の高さ」といっても、個人差があるということを示している。

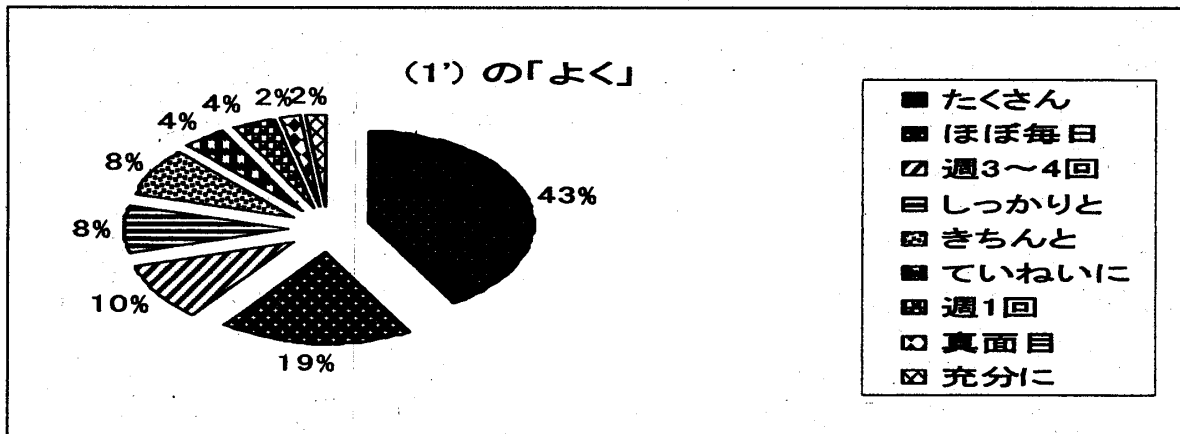


図2 (1)の「よく」の意味解釈

次に、年代別に、意味解釈を検討していこう。まず、もっとも多くの人々が解釈した意味である「たくさん」についてみていく。図3-1からは、特に際立った差異はみられない。ただし、特記すべきことは、70代以上の人々は100%、(1)の「よく」を「たくさん」と解釈したという点であろう。それ以外の年代では、それぞれの年代の半数以下という結果になっている。

では、年代による特徴が現れた例をもう一つ紹介しよう。図3-2の「きちんと」という解釈である。「きちんと」と答えた人は4名だったが、その全員が10代後半から20代前半の人たちであった。10代後半から20代前半のアンケート協力者は13名であったので、約30%の人が「よく宿題」の「よく」を「きちんと」という意味で解釈・理解したことになる。なお、今回調査に協力してくれたこの年代の人たちは全員が学生であることから、現在置かれている立場、状況、環境が意味領域に反映したものと考えてよいだろう。

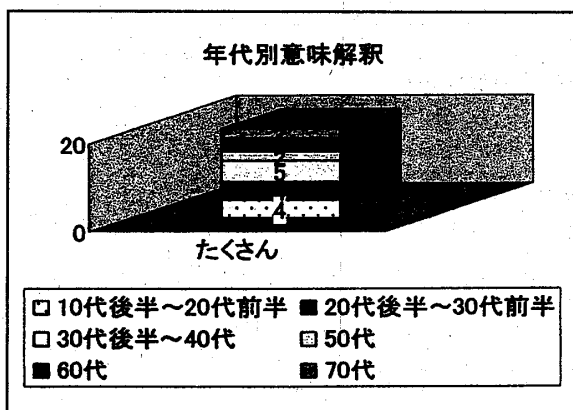


図3-1 年代別意味解釈「たくさん」

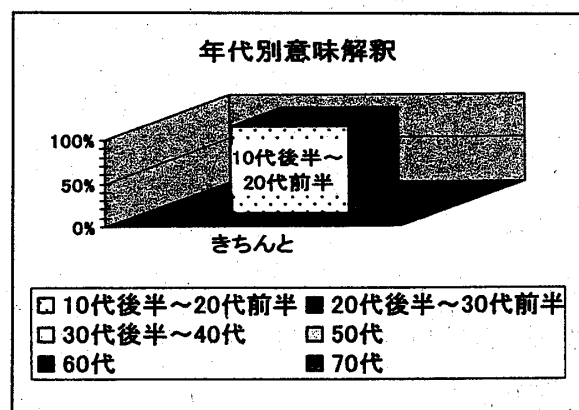


図3-2 年代別意味解釈「きちんと」

<分析2>

次の例の分析に移ろう。

(2) まず、野球のチームが 今より多くなければなりません。二番目は野球の試合を①よく開催することです。三番目に、テレビやラジオの中で②よく野球の試合を放送することです。

この文には二つの「よく」がある。アンケートでは、それぞれの「よく」について意味の記入をお願いしている。その結果、①の「よく」(図4)と②の「よく」(図5)の解釈には違いがみられた。

まずは①の「よく」から検討してみよう。図4から、①の「よく」はすべて<頻度>を表す意味で解釈されている。回答の多かった順にみていくと、「頻繁に、ちよいちよい、度々、数多く」が最も多く32%、次に「たくさん」が23%、「週に2~3回」が9%、「毎日」、「週に4~5回」が7%と続く。回答の中には、<頻度>で「3ヶ月に1回」や、もっとスパンが広く「年に数回」といった回答もあった。この例文の場合、「よく」の意味は<頻度>で一致したものの、その<頻度>の意味範囲は、「毎日」から「年に数回」までといった幅広いスパンで解釈・理解されることが示された。

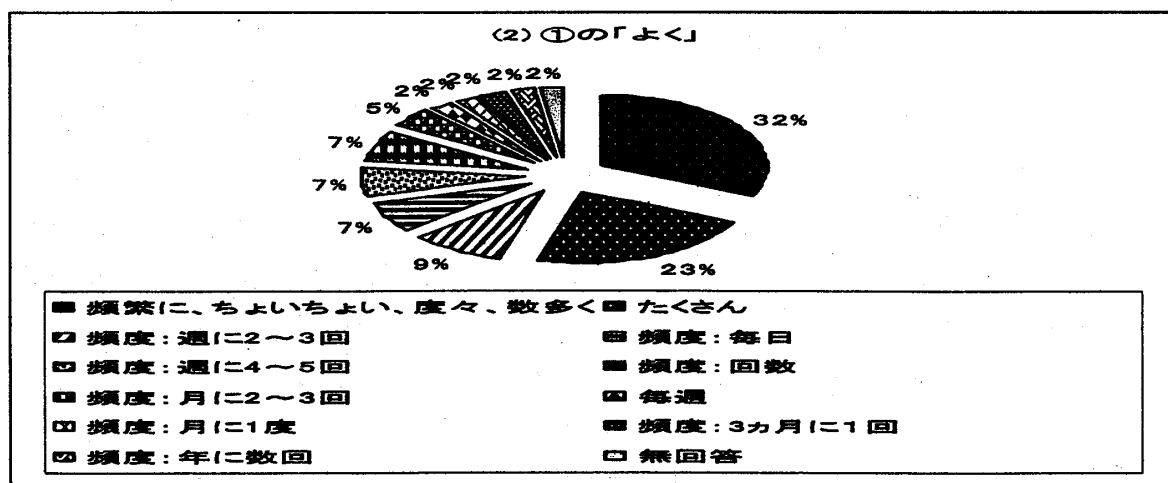


図4 (2) ①の「よく」の意味解釈

では、同じ例の中にあつた②の「よく」について検討してみよう。この意味の解釈・理解については、図5が示すとおり、かなり割れた結果となつた。総体的にみれば、<頻度>を表す意味が90%を超えているが、①の「よく」と比較すると、②はより具体的な意味で解釈が行われていることがわかる。例えば、「放送回数を多く」、「毎日1試合」、「試合のたびに」のような具体的なものの数を挙げている。一方、①の場合には、回答者

全員が単なる「回数」で捉えている。この解釈の差は、文中での「よく」の位置が影響していると考えられる。「よく」の持つ意味的スコープが狭いことが、この①と②の意味の解釈を左右していると指摘できるからである。また、少数意見では、「きちんと」、「くわしく」といった<程度>を表す意味での解釈もみられたのは特記すべき点であろう。さらに、この二つの「よく」に関しては、「両方とも同じ意味である」と解釈した人が約半数の22名いたことを付け加えておく。

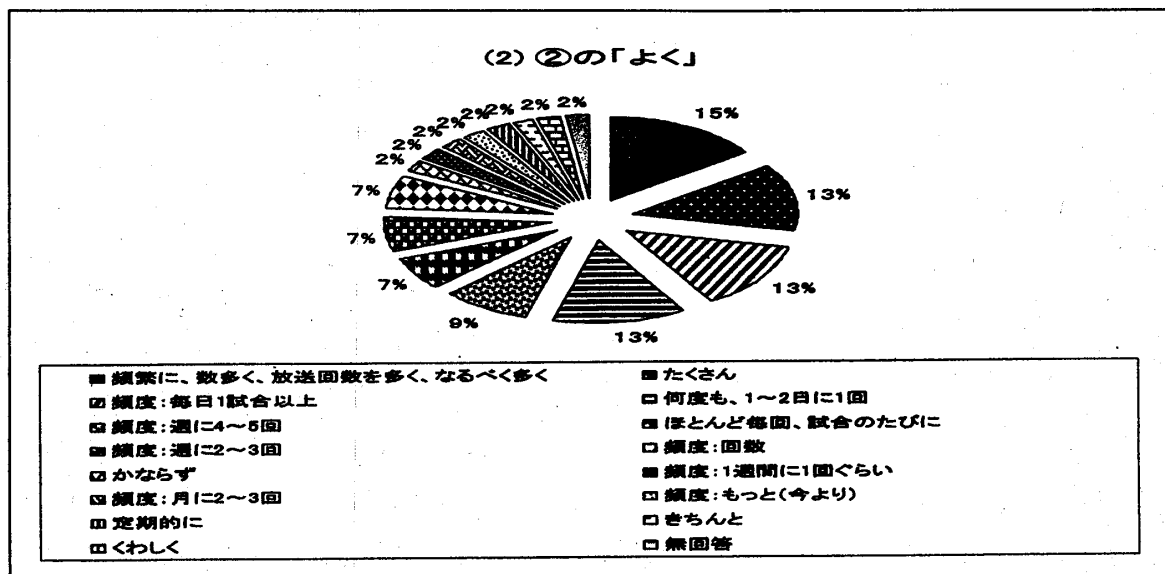


図5 (2) ②の「よく」の意味解釈

<分析3>

では、次の例の分析に移ろう。

(3) 建物の新築工事はよく進んでいる。

この文で使われた「よく」は、図6で示すとおり、「工事工程が順調である」、「計画通りである」と捉えた人が多く、72%であった。その他の意味でも、「進み具合を表す」と解釈した人がほとんどで、合計すると90%を超えた。45名中1名だけは「毎日」とこの意味を解釈したが、いずれの場合にも、文脈の影響が色濃く出ていると考えられる例である。

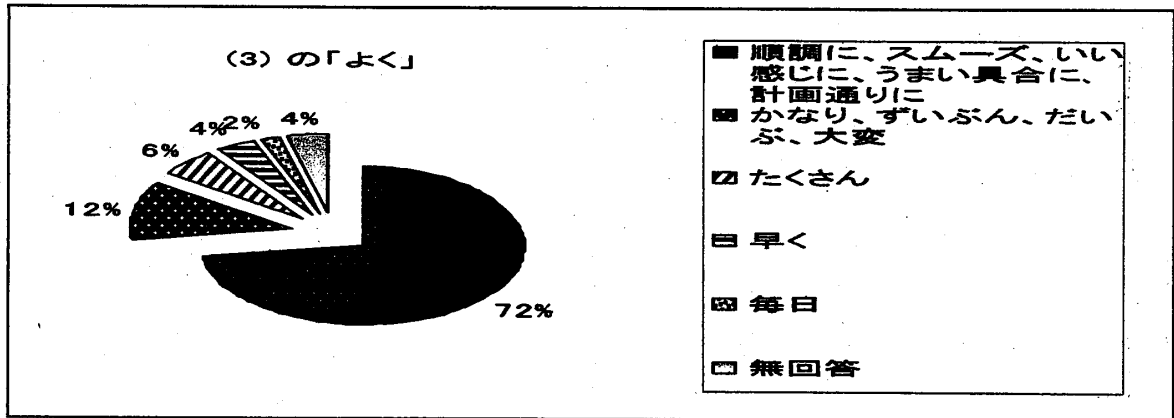


図6 (3) の「よく」の意味解釈

<分析4>

最後の例の分析に入ろう。

(4) シアトルの経済は、よく変化しました。

この「よく」は「良い方向、プラスの方向、上向き、順調」といった意味で捉えた人が37%で、「大きく、大変、めまぐるしく、著しく、激しく、かなり、ずいぶん」と捉えた人が24%だった。残りの4割の人は<頻度>と捉えた。(4)の例の意味解釈として指摘できる点は、頻度のスパンがとて「大きい/広い」という点であろう。図7の右側にある4番目と6番目の意味に注目してみたい。4番目は「年に2~3回」、6番目は「数年に1回」という長い期間を視野に入れた解釈となっている。この結果は、「よく」ということばが示す<頻度>の意味範囲の広さを改めて露呈したといえるだろう。

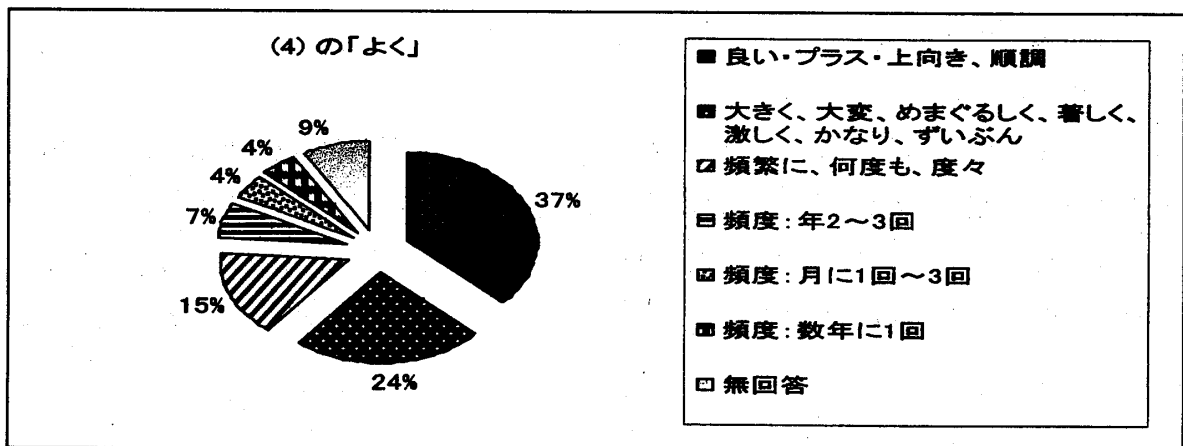


図7 (4) の「よく」の意味解釈

7. まとめと今後の課題

以上、アンケートに掲載した例文の中から特徴的であった4つの例を取り上げ、分析と

考察を試みた。その結果、次のような「よく」の意味的特徴が浮かび上がった。

- 実際の運用では、先行研究で記述されている意味領域や意味範囲を超えた解釈がなされる
- 文脈によって、〈頻度〉のスケールやスパンは伸縮する
- 意味の解釈は、文脈に影響される場合がある
- 意味の解釈には、個人的尺度、立場、状況、環境が影響する

今回の調査では、実際の運用上での「よく」の意味を探求したが、あえて意味のはっきりしない誤用文を用いているため、共通した意味というものがみえず、その解釈・理解は日本語母語話者でも難しかったようである。アンケートの回答の中には、「～のような気がする」といった回答や「こんなふうには言わない」、「この場合には使わない」といったコメントもあり、「よく」の使用領域を超えていた可能性も否定できない。また、15例のうち14例に対し「無回答（何も記述されていなかった）」があったことも、ここで述べておかなければならないだろう。つまり、このことは、「母語話者であるからといって単純に共通した解釈ができるわけではない」ということ示したのである。

最後に、「よく」の中心的な意味である「頻度の高さ」について言及しておこう。今回行った調査から、「頻度の高さ」には幅があることが明らかになった。例えば、「毎日」から「数年に1回」といった期間の幅が一例である。このような意味と意味範囲の幅に関しては、さらに調査をする必要があるだろう。

今後の課題としては、今回の結果を踏まえた上で、さらに意味領域を絞った調査を実施するとともに、市川（2000）が誤用関連項目として指摘している「よく」と可能文との関係について、「状況を設定し、文脈の中で考える」といったアプローチで、その共起関係を検討していきたい。

謝辞 本稿は、2004年7月24日に行われた昭和女子大学大学院研究発表会で発表したものをまとめたものである。本研究を進めるにあたり、昭和女子大学大学院の徳永美暁先生には貴重なご助言とご指導をいただいた。また、アンケートにご協力いただいた皆様にも、ここに記して感謝の意を表したい。

注

- (1) 本稿における「意味領域」とは、辞書に記述されている意味に加え、文脈、個人的尺度・立場・状況・環境等によって解釈されうる・理解されうる「よく」のすべての意味をさして「意味領域」という。
- (2) 本稿における「意味範囲」とは、「よく」を表す意味を構成している意味要素の中の〈頻度〉、〈程度〉、〈量〉の尺度または程度の幅をさして「意味範囲」という。
- (3) アンケートは、文末に資料として添付した。

引用参考文献

- (1) 市川保子 (2000) 『続・日本語誤用例文小辞典—接続詞・副詞—』 凡人社
- (2) 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明監修 (1989) 『日本語大辞典』 講談社
- (3) 金田一春彦 (1976) 「国語動詞の一分類」 『日本語動詞のアスペクト』 pp. 7—26. 麦書房
- (4) 工藤浩 (2002) 『副詞と文の陳述的タイプ』
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/kudohito/modal_types.html
- (5) 柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・山田進・浅野百合子 (1979) 『ことばの意味2 辞書に書いてないこと』 平凡社
- (6) 田中茂範 (2004) 「基本語の意味のとらえ方—基本動詞におけるコア理論の有効性—」 『日本語教育』 121号 pp. 3—13
- (7) 寺村秀夫 (1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』 [特別推進研究「日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究」 分担研究「外国人学習者の日本語誤用例の収集、整理及び分析」資料]
- (8) 仁田義男 (2002) 『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- (9) 萩原孝恵 (2004) 「『よく』の用法調査とその分析—〈頻度〉と〈程度〉を中心に—」 『昭和女子大学大学院日本文学紀要』 第15集 pp. 21—30
- (10) 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』 東京堂出版

副詞「よく」の意味に関するアンケート

現在、私は副詞「よく」に関する意味を調査しております。日本語話者は、「よく」の意味をどのように使い分け、理解しているのでしょうか。皆様のお考えをお聞かせいただきたく、このたびアンケートを実施することにいたしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、どうぞよろしくお願いたします。なお、今回ご協力いただいたアンケートの結果につきましては、研究の一環として、いずれまとめたいと考えております。その際には、データとして利用させていただくことに関し、ご了解をいただきたく、重ねてお願い申し上げます。

2004年6月 萩原孝恵

● 最初に、あなた自身に関して ご回答願います。

- 1) 性別 ・男性 ・女性
- 2) 年代 ① 10代後半～ 20代前半 ② 20代後半～ 30代前半
 ③ 30代後半～ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代 ⑥ 70代以上
- 3) 幼少期を過ごした場所 : 0歳～ () 歳 _____
その後の居住地 : _____

●以下、それぞれの文には、「よく」が使われています。どのような意味だとお感じになりますか？()の中に、自由にお書きください。また、頻度の「よく」であるとお答えいただいた場合には、それはどのくらいの頻度だと思われるか？「期間 に 何回ぐらい」と、具体的にお書きください。あまり考えすぎず、感じたままにお答えいただければ幸いです。

※ 4)～15)の文は、市川保子『続・日本語誤用例文小辞典』(2000)から引用しています。

例1) あの子は 本当に 食べますね。

(たくさん)

例2) 飲みに行きます。

(頻度 : 週に 2～ 3回)

- 1) もし私が先生なら、学生に 宿題をさせたいです。
- 2) 勉強も運動もがんばって、 やっています。
- 3) その調味料は悪い添加物が入っていますので、 食べると体に悪いと言われました。
- 4) 来ると 話し合えるだろうが、来ないと話があっても仕方がないだろう。
- 5) 建物の新築工事は 進んでいる。
- 6) あの子は日本語で 話しますが、論文を書くところまではいっていません。
- 7) シアトルの経済は 変化しました。
- 8) 夏目漱石は 明治時代の日本に起こった大きな社会的な変化について 書いている。
- 9) もし私が医者だったら、医療制度を改革するつもりだ。[・・・] そうすれば、貧民が 医

療にかかることができる。

- 10) 彼の話をよく聞いた。しかし、ほとんど分からなかった。
- 11) まことを尽くしてお互いに交流し合えば、よく理解し合うことができると思います。
- 12) おじいさんとおばあさんはお相撲をよく知っていますから、いろいろ話しています。
- 13) 試験に落ちた。それで、今度の試験のために、よく勉強している。
- 14) マレー人の話の中で、サン・カンチルーというのは体は小さいが、大変聡明な動物のことである。おにの話では、負けるのは、いつも悪者だから、サン・カンチルーはよく勝つ。
- 15) まず、野球のチームが 今より多くなければなりません。二番目は野球の試合を①よく開催することです。三番目に、テレビやラジオの中で②よく野球の試合を放送することです。